

林業普及員につき

施業のご提案!! の巻



そちらの山林を間伐すると、木材売上により負担金なしで、少なくともその金額でのご返却ができます。

美山町森林組合 小林課長
佐々木課長



木の良しあしもみて、施業の提案をするんですね。

われわれ森林組合が現地をしっかりと調査し、境界も測量するので、提案内容にみなさま安心していただいています。

境界の立ち会いは所有者様のご協力が必要です。よろしくお願ひします。

正月に太った



もちろん!

どんな木でも提案書出してもらえる??



おとなりさん

一筋40年の

おとなりさん

ほつほつはわしの盆栽を評価できる

とは若いのに

お方たちじゃ。

Fちゃん... ちゃんと話して聞きました?

間伐するとお金がかかるのでは? と不安な方も一度ご相談下さい! 近隣の所有者さんとまとめて間伐するとコストも下がります。ぜひ集落ぐるみでの林業(コミュニティ林業)を実施しましょう。

編集後記

3ページでは田んぼの環境学習についてご紹介しています。田んぼ周辺の生態系は、農薬や畦、護岸の状況、外来種の侵入等によって強い影響を受けます。メダカやアキアカネ等は全国的に減少していますが、次世代の貴重な環境学習の場としても自然との共存を模索していきたいですね。

要注意! 「紋枯病」



真夏の水田で稲株の中下あたりの茎に、灰褐色の病斑をよく見かけるようになりました。紋枯病によるもので、温暖化により夏の気温が上昇したためと考えられます。

この紋枯病は土壌中で越冬した菌が湛水によって稲株に付着感染し、温度と湿度が好適条件になると発病します。その後、茎の表面に直径2mm程度の菌核を作り、これが田面に落ちて翌年の発生源となります。

この菌は湛水によって隣接株に広がり茎の上方向にも進展します。上方向に進展すると、茎葉が枯死し収量と品質が低下し倒伏しやすくなります。また30℃前後で多湿を好むことから、高温で雨が多い年、湛水状態のままの圃場や過繁茂となった稲で発生が多くなります。特に早生品種や草丈が低く茎数が多い品種での被害が多く、ハナエチゼンやあきさかりでは注意が必要です。

紋枯病は「いもち病」のように劇的な被害にならないため軽視されがちですが、防除を怠ると圃場に残留菌核が年々増加し発生が拡大します。毎年発生が多い圃場では肥料を控え過繁茂とならないようにし、田植え時の箱施薬剤や出穂前の粒剤、粉剤散布による防除をしましょう。

(担当: 牧田主任)

発行: 福井県 福井農林総合事務所
〒910-8555 福井市松本3丁目16-10(福井合同庁舎内)
TEL 企画振興室(直通) 0776-21-8201
農業経営支援部(直通) 0776-21-8207
林業部(直通) 0776-21-8213
農村整備部(直通) 0776-21-8216
E-Mail: fuku-noso@pref.fukui.lg.jp

F-mail

No.46
平成27年2月20日号

福井農林総合事務所だより

安全安心な農業の実践に向けて

～今年の生産準備は万全ですか～

これまでの農業経営(農作業)を振り返ってみよう

安全な農産物の生産は農家の責務です。問題が起きれば、産地全体で出荷停止や商品回収を行わなければならない、その後の取引にも影響が出ます。特に、農業は環境に負荷をかける面もあることから、環境に配慮した農業を行うことが必要です。また、農作業による死亡事故が多く発生しており、全国で毎年約400人の方が亡くなっています。

作業のうっかりミスや事故を未然に防ぐための手段としてリスク管理(GAP)があります。



リスク管理(GAP)に取り組もう

まずは、機械や資材の管理状況、作業工程等の中に潜んでいるリスク(危険性)を知ることから始めましょう。そして、そのリスクが事故につながらないように対策を考えルールを作りましょう。そのルールは紙に書き、いつでも見られるよう農舎などに貼っておきましょう。忙しい時でも気持ち良く、効率良く作業ができるよう、清掃や整理整頓を定期的にも実施することもルールに盛り込むと良いです。無駄が減り低コスト化にもつながるでしょう。

また、問題が起きた際は迅速に対処できるよう、使用した資材や作業日などの記録を残すことも大切です。記録は、次年度の改善につなげるための貴重なデータにもなります。

(担当: 菅江企画主査)



リスク例



機械は定期的に清掃しましょう!



農舎は整理整頓! 農薬はカギのついた保管庫で保管する。



農薬タンクは使用後すぐに洗浄!



少量の農薬散布時は、キッチンスケールやスポイトを使って薬剤を計量しましょう!

ふるさとの森林を守り、木材生産を推進していくうえで中心的な役割を果たす「森林施業プランナー」。このコーナーでは、「プランナー」さんや現場で働く方々に、仕事や森への思いをお聞きしていきます。今回は、美山町森林組合のみなさんにお話を伺いました。



— 佐々木さんのご担当は
佐々木 私は森林や境界の調査等を行っています。地主さんの利益が最大になるよう丁寧な調査を心がけています。
杉本 そうそう。特に測量はすごく丁寧なんです！
— では、杉本さんは？
杉 僕も佐々木先輩と同じく調査や間伐計画の作成をしています。世代交代があっても山の管理ができるように情報の管理にも力を入れています！
— 小林さんは実際に間伐もするんですよね？
小林 はい。私は間伐現場の管理もしていますので、間伐の提案から施工まで全て関わっています。だから、きれいになった山を見るとうれいんですね。わが子の成長をみているようで（笑）。
— 山への愛着も湧きますね。
多野 僕は山につける道を担当しています。集落の人たちと山を結びつける「縁結び」が僕の仕事です！
— かつこいいですね。若杉さんも道担当ですね？
若杉 多野先輩とお互いに切磋琢磨してやっています。

お知らせ

当事務所の**藤極 伸太郎** 企画主査が、平成26年度林業普及指導員全国シンポジウムで、最優秀賞（林野庁長官賞）を受賞しました。プランナーさんや集落の皆様、ご協力いただきありがとうございます。



後) 杉本さん・若杉さん・多野さん
前) 小林さん・佐々木さん



取材当日も雪のなか現場で汗をかく仲保さん！

多 若杉くんはこんなことでも手を抜かないよね。「当たり前」のことも手を抜かないのがプロ。いい意味で、そのままのままでいいよ。
— みなさん、これからもがんばってください！
全員 おいーっす！

おかぼの生き物を守ろう！！

水路整備で岡保小学校の児童とコラボ

現在、岡保地区では、ほ場の大区画化や老朽化した用排水路の改修工事を行っています。実施にあたっては、生態系に配慮するため、毎年、岡保小学校の児童たちと「**田んぼの環境学習会**」を開催し、田んぼの生き物を守る方法や整備する施設の構造・工法について一緒に考え、児童たちのアイデアも参考にしながら進めています。児童たちと一緒に『考え・つくる』ことで、親しみある地域の土地改良施設となり、将来にわたって大切に利用していただけるものと考えています。「**田んぼの環境学習会**」の内容は下記のとおりで、毎年、5年生を対象に行っています。



「田んぼの環境学習会」の内容

H24年度『知る』

- 土地改良事業や田んぼの生き物について学ぶ
- 整備前の水路で生き物調査を行う（捕獲した魚は学校で飼育し、工事後に水路に帰す）

H25年度『考える』

- 採捕した生き物を調べる
- 生き物を守る方法について考える
- アイデアを出す

水路の改修工事

- （採用したアイデア）
- 生き物の避難、石積水路、魚道 など

H26年度『広げる』

- 整備後の水路で生き物調査を行う
- 効果について検証（整備前との比較）



平成26年度 各種農業関係表彰一覧

受賞名	受賞者名等
福井県農林漁業賞 農林漁業経営者部門	田中 藤右エ門 氏（福井市上伏町）
全国麦作共励会 麦作優秀者表彰制度 農林水産大臣賞 福井県知事賞	南江守生産組合（福井市南江守町）



西川知事から表彰を受ける田中藤右エ門氏と南江守生産組合組合長杉本進氏
（平成26年11月22日 福井県産業会館で行われた表彰式にて）